令和６年度　伊那市立伊那東小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
○かしこく（自ら学ぶ子ども） ○やさしく（思いやりのある子ども） ○たくましく（健やかな体の子ども）	笑顔が集い　のび合う学校 互いのよさを認め、切磋琢磨し合いながら、共に生きる道を切り拓いていく東小の子の育成をめざす。
	今年度の重点目標
	⑴笑顔が集い　のび合う学校 学びにひたり　学びを支え合う　子どもの育成
	⑵笑顔が集い　のび合う学校 読書にひたり　あいさつを交わす　子どもの育成
	⑶笑顔が集い　のび合う学校 健康な心身をもった　子どもの育成

総合評価

○「互いの良さを認め、共に生きる子ども」を大切に考え、ささえ合う　学び・読書　かわし合うあいさつ　たくましい体　をテーマにして、１年間の教育活動に取り組んできた結果、多くの保護者が「子どもは、喜んで学校に通っている」（学校評価アンケート・保護者）と評価している。特別な支援が必要な子どもたちや、外国籍の子どもたちをも包み込んで、共に伸びていこうとする温かな雰囲気の学校になってきている。今後も風通しのよい学校運営に務めたい。特に、学校の誕生日である開校展については、同窓会・PTAの皆様のご協力をいただきながら、地域の方と共に「子どもをど真ん中に据えた」教育活動を展開することができた。

成果と課題	評価	改善策・向上策
⑴　研究主任が中心となり、全職員で、新たな学びに向かって取り組むことができた。Microsoft チームスを活用し、日常の授業を共有する中で、職員同士が互いに学び合うことができた。今後は、子どもが自信の学びを実感できる取組を強化していきたい。	A a	○先生方が主体的に取り組める研究体制を整えていきたい。次年度は、一人一公開を通して自身の課題に沿った研究をすすめ、お互いに見合う中で、学び続ける職員集団の意識を高めていきたい。また、ふりかえりを大切にし、子ども自身が学びを実感できるよう意識したい。
⑵　南信図書館大会の会場校の機会をいただき、校長室前廊下の掲示や校長講話を通して、読書に親しむことができる環境を整えた。また、保育園児を招いての読み聞かせ、読書ボランティアによる朝の読み聞かせを行い、地域との連携を図る中で、あいさつの意識の向上に努めた。	A a	○今後も読書活動の充実を図りながら、子どもの言語環境を豊かに育んでいきたい。引き続き、むつびっ子ブックリストを作成することにより、子どもが主体的に読書に取り組めるようにし、達成した児童は全校に紹介し、表彰を行うなど、成就感や達成感を味わえるような取り組みをすすめていきたい。
⑶　職員会議では、生活指導係が中心となり、情報交換をすることを大切にし、一人一人の困り感はどこにあるのか、どのような背景からそのようのことが起こってくるのかを考え合うことができた。6 年生の児童が率先して毎朝「代表委員会」を中心に全校への呼びかけを行った結果、多くの児童が「元気な明るいあいさつができる」と回答した。来校者からも昨年度に引き続き評価していただけた。	A a	○子ども一人ひとりの様子や背景について、今後も全職員で共有する機会を設けていく。生徒指導事案が多様化する中、予防的対応を含めて、全校体勢で組織的に取り組んでいく。健康な心身をもった子どもの育成のために、変化に敏感に気づき、迅速な対応ができるようなチェック体制を整えていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○「自ら学ぶ子ども」育成のための 言語活動の向上、学び合い学習の推進をめざし、基礎・基本を大切にした教育課程づくり	○言語活動の向上を図り、基礎基本の学力の定着を進めたか。 ・毎朝の読書活動の充実 ・毎朝のドリル学習の設定 ・個別最適な学習方法として AI ドリル等の活用 ・個別の手だてや小集団等の授業形態の工夫 ・むつびっ子ブックリストの推進	○今年度は南信地区図書館大会の会場校となり、これを機に改めて読書の充実を図った。朝読書と習慣化している読書により、言語環境が豊かになってきている。ドリル（算数・国語）により、「読み・書き・計算」の基礎的基本的な力がついてきている。また家庭学習の手引きを児童の実態に合わせて作成し配布した。周知したり改善したりすることで実態に合った学習の手引きとすることが課題である。むつびっ子ブックリストを作成することにより、児童はより意欲的に読書に取り組めるようになってきた。	B b	○学校評価アンケートで「よく読書をしている」の回答は児童と保護者の認識に差がある。日頃から学校の取り組みを様々な角度から伝えていきたい。 ○ドリル学習の実施内容を見直して、個人差の解消に向けて、個々の児童の課題に応じたドリル学習が実施できるように、学習プリントや教材を多様に準備する。 ＡＩドリル等、個別最適な学習環境のあり方についても研究を重ねていく。 ○「家庭学習の手引き」（児童・保護者用）の改定を保護者の意見を聞きながら引き続き進め、東小学習スタンダードの見直しも進めたい。
			○児童が農作業体験と給食を結びつけ、循環型の社会について、体験をとおし実感しながら学ぶことができたか。	○各学年、農作物を決め、栽培活動に取り組み、給食に提供することもできた。提供し合うなかで感謝の気持ちをもつことができた。どの学年・学級でも日常的に作物に関わる児童の姿があった。農業ボランティアの支援を得て農業について学びながら栽培することできた。	A a	○引き続き、農業ボランティアを充実させ、栽培方法の工夫と生産活動の効率化を専門 性のある方から児童に学ばせることをさらに進めたい。学校農園での作物作りも一層充実してきている。給食の食材提供も継続したい
	学習指導	○子どもが主役になる、わかる授業づくり ○学力の向上をめざした定着の時間の設定	○「学習問題」「学習課題」を児童にもわかりやすく提示しての授業が日常的に行われ、学習の筋道がわかる板書になっているか。	○県教委の「授業がよくなる３観点」をもとに、学習課題を明確にすることと、学習の道筋がわかる板書の工夫をそれぞれの教師が意識した。また、子どもが主役となる学びについて職員研修の場をもった。「授業がわかりやすい」と答えた児童の割合は多いが、個人差が大きく、学習に意欲的に取り組めない児童に対しての指導が課題である。	A a	○日常的に授業を見合って、それぞれのよさを共有したり改善点を指摘し合ったりすることと、研究授業による全校体制での授業改善への取り組みを今後も継続して行い「授業が勝負」という教師の姿勢を鮮明に打ち出していく。 また、個別の指導計画の作成や見直し、学習支援員の関わり方についても研究したい。
			○授業のユニバーサルデザイン化を進め、どの子にも「できた」「分かった」と満足できる授業の推進	○個別の指導計画の作成、それぞれの児童の状況にあった教材提示、学習環境の設定を進めてきた。また、特支学級との連絡を密に行い実態と指導の効果を検証しながら取り組んで来た。ICT 機器の有効活用についても研究していく。	B b	○様々なテストや検査があるので、データを分析して、「この子には、どんな方法で、どんな力をつけていくか」またどのような特性があるかを、職員会議・学年会議等で検討し、職員が課題を共有して取り組めるようにする。年度末には検証したい。
	生徒指導	○温もりのある人間関係づくり	○「あたたかなあいさつをして、相手を気持ちよくする」ことに向けての取組が行われているか。 ○中核となる活動をとおして望ましい人間関係づくりの指導がなされているか。	○職員からの積極的なあいさつを続けるなど、生活目標を含め、いろいろなアプローチで迫るように工夫している。また、職員会議の際に現状の意見交換をし、取り組める事柄を考えたことで、児童会で強調月間の他に、毎朝「代表委員会」を中心に全校への呼びかけを行った結果、来校者や地域の方々から、「元気な明るいあいさつができる」という評価をいただいている。	B b	○あいさつが消極的である児童もいるので、「自分があいさつすることで、相手がどんな気持ちになるか」を考えた取り組みを継続していく。学校内だけでなく、家庭でも地域でも率先してあいさつができる大人になるよう個々の児童に現在の自分の状態を振り返らせると共に家庭へも働きかけを行う。
			○いじめのない温かな人間関係づくりの指導がなされているか。 ○行事等を通して自主性や豊かな心の育成に努めているか。 ○他の人の話に心を寄せて聴くことができているか。	○いじめの見逃し０の学校づくりをめざして取り組んできた結果、いじめの認知があった後の対応が適切に行えたことにより、継続した事案は出ていない。また、複数の職員で連携して早急に対応し、保護者にも説明してきたことが、保護者アンケートの評価の高さにもつながっていると感じる。	A a	○行事について自分たちで創り上げる活動に意欲を持ち、友だちと協力して取り組む姿が多く見られる。そういった姿を認め、自尊感情を高め、他者との良好な関わりを学ぶ機会として位置づけ、よさを体得させていく。なかよしアンケートの実施（2回）と QU の実施と分析、実践、QU の実施の過程を通して学級経営力を向上させたい。
学校運営	安全	○「交通事故０」をめざした交通安全指導	○登下校における安全、休日等の自転車の安全等、日常生活の安全指導ができたか。	○「交通事故０」をめざして係職員を中心に、全校で安全指導を行ってきた結果、大きな交通事故もなく、安全な学校生活を送ることができている。通学路の安全対策については、ＰＴＡや見守り隊との協力や共通理解を進めている。	A a	○児童の安全な通学路確保については、地区内の危険箇所を確認地図上に表し注意を喚起してきた。危険箇所マップを更新し現状にあったものにし交通安全を呼びかけていきたい。
		○安全の確保のための日常の点検活動の強化	○校舎内外の点検・整備をして、健康・安全確保ができたか。	○毎月の初日を安全点検日として、全職員で校舎内外の安全点検を行った。安全への意識を高めることにより、日常の清掃でも、児童と職員が一緒に取り組む姿が多く見られる。	A a	○保育園との合同訓練に加え、地域参加型の防災訓練の導入も検討していく。また、年度ごとに危機管理マニュアルの見直しを行っていく。地域の防災訓練と合同で実施することを検討していきたい。
	地域との連	○地域にある教育力（人材）の活用	○信州型ｺﾐｭﾆﾃｨｰｽｸｰﾙ（CS）の運営を推進することができたか。 ○「のびゆく会」「安全見守り隊」の会議を大切に位置づけ、学校の方針を理解していただいた上での協力要請ができたか。	○年間を通して、計画的にＣＳの運営をすすめることができた。地域の方が大変協力的で、職員や子どもたちとの関係が良く、有意義な機会となっている。 ○第 126 回の開校展では「子どもをど真ん中に据えた」企画を考えた。全校児童が主役のハーモニーコンサートでは会場から感嘆の声が聞かれ、また涙を流す保護者もいた。 ○ のびゆく会・見守り隊ともに全体会議を持つことができた。	A a	○信州型ＣＳ運営委員会を４回開催し、より子どものニーズに合わせた活動を実施していく。各部会のリーダーの育成、引継ぎが課題である。 ○第 126 回の開校展では、地域の方々の魅力に気づくため、働く方々のブースをつくり、体験したり触れ合ったりする機会を設けた。児童からも地域の方々からも大好評であった。地域の方々の声に耳を傾け、さらに魅力ある開校展にしていく。

	携	○保護者との連携	○学校の様子を家庭に十分伝えているか。 ○保護者への連絡や相談等により、協力を得たり相互の理解を深め合ったりして、児童の教育に活かすことができたか。		○児童の様子を写真や作文などの具体の姿で掲載した「学校だより」・「学年通信」・「学級通信」の発行を、情報配信システムにも掲載。カラー写真での通信は好評である。 ○必要に応じ外部機関（市子ども相談室・福祉課・教育事務所・ＳＣ・ＳＳＷ・児童相談所・警察等）と連携して対応した。ネグレクトについても引き続き情報を共有する。	A a	○教頭が窓口となって外部との連絡調整や、問題解決を迅速に行うように委員会組織が動いた。さらに教職員からの一方的な指導ではなく、児童に行動を振り返らせ、解決策を一緒に考えさせるといった、児童の育ちが期待できるような指導を進めていく。 ○情報配信システムの有効利用を考え、保護者との有効な情報共有を図る。
	研修	○校内研究修養の充実	○授業に関することや広く教養を深めたりすることなど、積極的に研修に取り組んだか。		○研究主任を中心に、各グループが課題をもって意欲的に研究に取り組んだ。Microsoft チームスを活用し、研究の進捗状況や子どもの様子について全職員での共有を図った。	A a	○特に「学力向上」「総合・生活科」や「特別支援教育」、「プログラミング教育」といった分野への職員の校外研修の参加を積極的に進める。同僚性を高めるため、教職員が講師となりそれぞれの得意分野について学び会う機会をつくりたい。
		○職員研修の工夫と充実	○「学び続ける教師像」を求め、校内外の講師を活用しての幅広い内容の研修を実施したか。		○「児童理解」「特別支援教育」等の内容で外部から講師をお招きして研修を実施した。また、毎回の職員会議で県教委のＨＰからの資料や新聞記事の資料などを扱い、非違行為防止に努めるよう研修を行った。	A a	○自己課題解決のための研修を更に推進したい。重点研究を推進していく上でそれぞれが課題を持ちその課題について、子どもの姿で語り合う研究会にしたい。非違行為防止研修については、引き続き内容や方法を吟味しながら防止に努めていく。